

令和2年度 健康安全部 安全・防災係総括

- 目 標**
- ・児童生徒が安全で安心して過ごせる学校づくりへの取り組みを計画、実施する。
 - ・校内環境の整備・改善、ヒヤリハットの共有と活用で、安全への意識を高める。
 - ・様々な災害等を想定した避難訓練を行うとともに、日常的な備えなどの防災意識を高める。

- 活動内容**
- ・上記の目標に向けて、以下の活動を実施した。

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・火災避難訓練<全校>（避難なしで映像学習） ・心肺蘇生法講習会<初任者・新任の実習教員対象>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法講習会<初任者対象> ・大災害時の想定研修・訓練<教職員対象>（夏の方は冬にスライド）
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・地震避難訓練<全校>（保護者引継ぎ訓練と同時） ・大災害時の想定研修・訓練（保護者引継ぎ訓練）<教職員・保護者対象>
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心点検 ・ヒヤリハット報告 ・防犯ブザーの配付 ・個人用非常袋の周知

1. 心肺蘇生法講習会 8月17日（火）

《内容》

初任および新任の実習教員10名を受講対象とし、心肺蘇生法、自動体外式除細動器（AED）の基本事項や実技講習を行った。例年きていただいている茨木消防署員は新型コロナウイルスの影響に伴い来校できず、基本的な内容は動画で確認し、安全防災係がリードする形で行った。消防署からお借りした人形とAEDの訓練用装置を使い、実技も一通り行うことができた。

《来年度に向けて》

- ① 隔年でという希望はあるが、定着を図るため、これまで通り毎年実施する。ただし、新型コロナウイルスの流行が続く間は、今年度のような規模で行うことが望ましい。
- ② 心肺蘇生法の基本を習得するのが目的。学校の緊急体制訓練とはリンクさせない。

2. 火災避難訓練 7月22日（水）

《内容》

コロナのため遅い時期に実施した。茨木市消防署下井分署から隊員4名が来校予定だったが、コロナのため中止、消火器の扱い方についての講習も中止、各クラスで、非常袋、避難経路の確認、ビデオでの火災避難訓練学習

《来年度に向けて》

コロナでなければ、前年度と同じにする予定
引き続き 非常袋の確認は必要なので、行う。

《検討事項》

- ・ビデオの場合、小学部には内容が難しかった。

3. 大災害時の想定研修（保護者引継ぎ訓練に移行） 日程調整中

《内容》

コロナ陽性や大規模災害を想定して、保護者引継ぎ訓練を行った。

《来年度に向けて》

- ①次年度も教職員を対象とし、実施時期は夏季休業中に研修を1日間押さえる。
- ②研修の内容については、次年度の係で検討する。

《検討事項》

- ・来年度も実施予定。
- ・スケジュールの都合上、この研修の実施は暑い夏休み前後でしか実施できないため、今年度同様クーラー設備のある部屋を使用したい。
- ・実施時期は、多忙期を避け夏休み初めで検討。

4. 地震避難訓練 日程調整中

《内容》

保護者引継ぎ訓練前に、クラスで非常袋、避難経路の確認を行い、避難はしなかった

《来年度にむけて》

コロナ前なら11:00に地震発生を想定。事務室から40秒地震音を流し各教室で「身を守る行動」を実践した。地震音終了の後、健康安全部の教員がブロック点検を行い本部（事務室）に報告、避難放送を入れた。グラウンドへ全校生徒・教員が避難し全員の点呼で終了。

6. 安全・安心点検 毎月初め

《内容》

各火元責任者へ毎月初めに安全・安心点検表を配布し、点検を行ってもらう。記入された内容をまとめる際、小中高全体で最も優先されるべき修繕の順位付けを行った。各部署（管理職、健康安全部長、事務室）に報告する。また、毎月1日を「安全点検の日」とし、校内の安全点検を呼び掛けた。防犯ブザーの作動チェックも火元責任者に行っていた。なお、点検表の提出は修繕箇所がある場合のみお願いした。

《来年度に向けて》

- ①安心安全を進めるため、今後も継続して行う。
 - ②点検表については、まとめたものを上記の各部署に配布する。その他、修繕が必要な箇所があった場合は、その内容をまとめ、小中高全体で最も優先されるべき修繕の順位付けを行った上で管理職・健康安全部長・事務室に知らせる。
 - ③例年通り保健室と体育科にAEDの動作確認をしてもらった。
- ③ 今後も全校で統一した教室番号表を用いて、安全点検表の番号に反映させていく。

7. 火元責任者の設定 & 防犯ブザーの配付 4月初め

《内容》

年度当初に学部等配属表などを参照し、火元責任者の設定を行った。教科が関係する特別教室については主に教科の代表の方を入れるなど配慮した。大阪北部地震以降、教室だけでなく廊下などにも担当者を割り振り、日常の安全点検をカバーできる体制を整えた。

毎月、安全点検の日に各担当者がブザーの作動確認をした。不具合があった場合は、安全係にブザーの提出をしてもらった。

《来年度に向けて》

- ① 安全・安心点検の日に各火元責任者がブザーの作動チェックを行う。
- ② 年度末に一斉回収し、作動確認等整備を行い、新年度の教室配置に合わせて再配付する。

8. ヒヤリハット報告 随時

《内容》

指導中にヒヤッとしたりハッとしたりしたことについてと、実際に起きてしまった軽微なインシデントを用紙に記入し、原因や解決策を報告し、共有しあうことで再発防止と学校生活における事故の防止に努めた。

報告された事案を各学部の連絡会で報告し、共有した。

《来年度に向けて》

- ① ヒヤリハット・インシデントの報告は今後も事故防止のために継続する。報告されたものは直ぐに全体で周知し、再発防止に努める。ある程度集まったら集計し全体の傾向を把握し、必要に応じて全体へ注意喚起したほうが良いと思われる。

9. 防災係

《内容》

学期ごとの個人用非常袋の持参・持ち帰りの周知。教員用非常袋の配付と集約（昨年度末にガーゼ、三角巾を更新）。ボイラ倉庫内の整理。年2回（9月・3月）非常用電源の起動確認を行った。

児童生徒の個人用非常袋を年度当初に私費で購入し、入学後に家庭に配付するようにした。高等部の入学者決定後、各学部の新生の人数をまとめ購入先（100円均一）に予約を入れる。新年度に引き取り、学部ごとのレシートを作成、学部の係に提出。

防災対策委員会と連携し、マニュアルの整備、備蓄品等の購入と配備を行った。期日の迫った備蓄食を試食体験実施予定。

《来年度に向けて》

- ① 今年度の実績を踏まえ、主として災害時の備蓄品の管理および周知を行う。

10. 火を使用する場合の申請書の管理 随時

《内容》

屋外で火を使用する際、申請を消防署に提出している。焼きいも以外にも、落ち葉の処理など、高等部で長期的に毎週火を使う授業がある。それについては、手続きを簡略にするため、まとめて申請した。

《来年度に向けて》

- ① 4月に職員集会で申請書を消防署に提出することを周知徹底する。
- ② 安全防災係りが申請する場合、授業の場所・内容を授業担当者から聞き取っておくことが必要。

11. シェイクアウト訓練 9月5日実施

《内容》

今年度は茨木市と別日程のため学校単独で行う予定だった。事務室から地震音を流し（40秒間）身を守る行動の訓練に取組んだ

《来年度に向けて》

大阪880万人避難訓練と同日に行うので授業やHRでの防災教育や事前指導を行う。

要望

- ・火災避難訓練については例年通りの実施。例年の地震避難訓練は「大阪880万人」と合わせて行ったが暑さのため9月上旬に外への避難は危険がある。1月に行っていたシェイクアウト訓練は外へ避難する訓練ではないのでシェイクアウト訓練と地震避難訓練を入れ替える。